

# ネギ黒腐菌核病に対する薬剤防除(秋冬ネギ)

## ○秋冬ネギ(11月～2月収穫)におけるネギ黒腐菌核病の感染時期と被害

本病は低温性の土壌病害(地温 10～20℃が発病適温)であり、秋冬ネギ作型での感染初期は定植直後です。6月下旬から9月中旬にかけて高温により発病が休止し、9月下旬から秋の感染・発病期となります。

ネギの被害は、11月以降から12月にかけて徐々に大きくなり、暖冬年は越年後も被害が拡大します。春ネギほど被害は大きくないですが、薬剤防除は必須です。

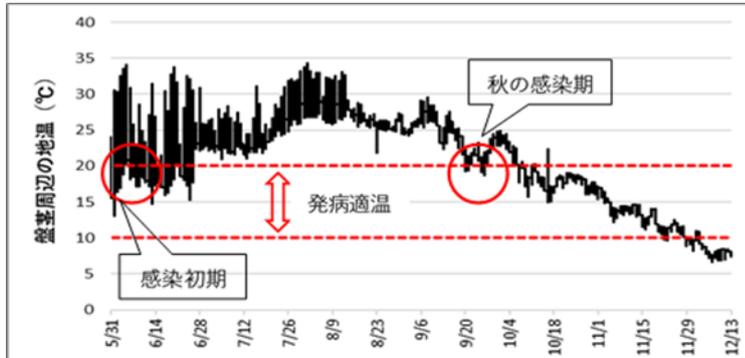


図1 ネギ盤茎部の地温と本病の感染期(2019)



甚発生圃場の無防除区(12月)  
枯葉が多く目立つ

## ○秋冬ネギ作型の薬剤防除2回体系

定植時に育苗トレイ灌注を行うか、定植直後に1回目の防除を行い、9月上中旬に2回目の防除を行う。

### 【防除例】

定植直後(1回目)	9月上中旬(2回目)
パレート <sup>®</sup> 207フロアブル 2,000倍、300ℓ/10a	セビア <sup>®</sup> フロアブル20 1,000倍、300ℓ/10a

### 【防除薬剤の選定・考え方】

1. 根部への感染を防ぐため、定植時または1回目には、効果の高いパレードを用いる。
2. 薬剤抵抗性発達を回避するため、2回目の散布は、パレードと異なる系統(FRAC)の薬剤を用いる。



薬剤防除区(可販割合 98.9%)



無防除区(可販割合 42.1%)

薬剤防除区は、根張りが良く、太物中心で、廃棄するネギは殆ど無かった。

無防除区は、根部、盤茎の腐敗がみられ(右写真)、明らかに生育が抑制されていた。

